

Le revenant (幽霊)

CHARLES TRÉNET

訳詞：Junko Higasa(2015.1.17 Sat.)

冬の呼び声
訪れた窓
心を決めて
空を眺めた
風に分だけ
闇が広がる
部屋の暖炉は
揺らめきを繰り返す
路上にふと見る
不思議な人影
見たことのある
割れたひづめと角^つ
一番嫌いな
医者か悪魔か
それとも天使
それ以上 わからない

店の看板に
潜む暗殺者
馴染の幽霊
病院の看護師
強いブランシュ・ド・カステューユ
遺志を継ぐ者
忘れたいのに
いつも通り変わらずに
余韻が響いて
疲れた身体を
オペラ座の歌手は
支えて耐え抜く
ついに崩れ落ちて
まるでトマト・ファルシ
蓋の下で眠る
ルーヴルで見るとように

闇を駆け抜け
列車は運ぶ
昔の夢へ
幼い頃へ
憧れた空
エッフェル塔のあるパリ
すべてを捨てて
歌だけに生きようと
それから過ごした
いくつもの夜
あらゆる季節
家の棚には
約束が山積み
けれども ^{あした}明日は
果たすことなく
さすらいの旅の中

働きすぎて死んだ歌手。
いずれ幽霊になってこの世に戻って来るけれど
死んだから明日の分の約束は果たせないよ。
トレネは何とこれの原詩通り脳卒中で亡くなった。
~~~~~

私が高野圭吾さんと出会った頃、  
“今、シャルル・トレネの「幽霊」を訳してるんだ  
けどねえ...”と聞いた。会話内容はオフレコだけ  
けど、その時の光景はすべて記憶に残っている。  
原詩に触れたら、急にそれを思い出してこれを書き  
たくなった。高野訳詩ワールドには、その時耳にし  
た氏の人生経験と内面の思いが引き寄せる詩人の魂  
があると思う。  
~~~~~